

# いきいき 行田人

## 国際野球大会で日本代表に選出

代 拓海さん（14歳・駒形）

今月は台湾で開催された「第6回台湾阿里山杯争奪国際野球大会」（以下大会）の日本代表に選出された代拓海さんを紹介いたします。

丸刈りがとてもよく似合う代さん。その姿は、まさに野球少年そのものです。代さんが野球を始めたのは、小学3年生のとき。水城少年野球に所属していた近所の友達に誘われたのをきっかけに、入団しました。代さんは、仲間と思いつき野球ができる練習日が何よりも楽しみだったそうです。6年生になると二塁手としてチームの中心選手となり、チームは行田市少年野球春季大会、読売旗争奪県北少年野球選手権大会で優勝し、さらには768チームが出場した第4回埼玉県読売少年野球ウィナーズカップでも準優勝を果たすなど、圧倒的な強さを誇っていました。

小学校を卒業すると、チームメイトが地元で行田シニアに入団する中、代さんは「自分の知らない環境でチャレンジしてみたい」という



強い思いから、熊合リトルシニアに入団。初めは不安でいっぱいだったそうですが、持ち前の明るい性格ですぐにチームに溶け込んでいくことができました。

中学2年生になると、ムードメーカーとしての気質を監督に認められ、キャプテンに抜かされました。「チームの勝利のためには団結が必要」と考え、試合に出られない選手にも声を掛けるなど、自分のプレーだけでなく、チームのことも常に考えるようになったそうです。代さんを中心に選手の間が一つになったチームは、秋のリーグ戦のプレーオフを制し、見事関東大会に出場しました。

こうした実績が認められ、今大会の日本代表に選出された代さん。その知らせを聞いたときは「すごうれしかったです。まさか自分が日本代表のユニフォームを着ることができるとは思いませんでした。胸に刺しゅうされた日の丸を見ると、『国を背負って戦うんだな』と責任を感じました」と大会への闘志がふつふつとわいてきたそうです。

「目標は、甲子園に出場して、将来はプロ野球選手になること」ほぼ毎日行われるチームの練習に欠かさず参加し、家に帰ると自宅に設置されているネットに向かって、父親と二人三脚でバッティング練習に励むなど、野球漬けの日々を送っている代さん。大きな夢に向かって今日もがむしゃらに白球を追い続けます。

## 私の作品

### 俳句

佐間 須永 節子  
一夜にて庭華やかに春の雪

忍 丸山 連子

お太子の知恵欲しき世や春寒し

荒木 増田 時枝

得意げに園児の手の中つくしんぼ

須加 天沼 広吉

寒明の三枚漬けは家の美味

深水町 松岡 東籬

西切りのピースがおれる海市かな

白川戸 鈴木 都子

騙しつっ使ふ足腰春よ来い

下忍小6年 阿部 広夢

鎌倉や囲む山並大紅葉

渡柳 武笠 文字

むさし野に風舞い上がり走る子等

佐間 矢澤喜美江

梅咲きし心待ちする愛らしさ

清水町 柳沢 紀子

古民家でかたりへの会春近し

荒木 国島 初江

如月の太子の祭り参詣す

富士見町 森 節子

今年また小箱で届くふきのとう

矢場 鈴木かつの

春待つや傘寿の我と初ひ孫

城南 町田ツギ子

山茶花のはなに見せられ距離伸ばし

前谷 町田 貞子

花筏乗ってみたいな蝶になり

（木島 斗川 監修）



『横浜イギリス館』（淡彩画）  
森田 利恵（向町）

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。



**田中 友希乃ちゃん**(佐間)  
父・俊介さん 母・美由紀さん  
平成23年4月1日生まれ  
「笑顔が笑顔をつなげてゆ〜♡」



**大澤 成海ちゃん**(長野)  
父・真吾さん 母・梨恵さん  
平成23年4月13日生まれ  
「嫁にはやらん♡父」



**山口 玲偉ちゃん**(齋条)  
父・貴雄さん 母・絵美さん  
平成23年4月22日生まれ  
「心のダイヤモンドを大切に☆」

はじ め ま し て



**高澤 舞桜ちゃん**(長野)  
父・昌史さん 母・恭子さん  
平成23年4月13日生まれ  
「かわいい女の子です。」



**浜田 大晟ちゃん**(清水町)  
父・和宏さん 母・里美さん  
平成23年4月15日生まれ  
「元気に育って♡」

平成23年6月生まれのお子さんを募集します

○4月2日(月)~27日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。



○応募者多数の場合は、5月7日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

さわやか サークル

キアラ-11

～心に響く鳴子の音～



高知県のよさこい祭りです。使う楽器「鳴子」と、北海道の民謡「ソーラン節」を融合させた「よさこいソーラン」。毎月第1・3月曜日の午後7時30

分から9時まで、コミュニティセンターみずしろで、鳴子を手に威勢の良い踊りを披露しているのが「キアラ-11」の皆さんです。

平成21年7月に荒木地区の方が結成した同クラブ。クラブ名は、「荒木」を並べ替えた「K-I-A-R-A」に、同年11月から蓮沼富久恵先生を講師に迎え、本格的に活動を始めたことを記念して「11」を付けたことが由来となっています。迫力のある踊りや、カタンカタンと音が響く鳴子に魅了された8人のメンバーは、「毎回の活動が待ち遠しい」と語ります。

よさこいソーランといえば、チーム独自の衣装も魅力の一つ。右のすそにクラブ名が記された長はなんてんは、動くたびにひらひらとひるがえり、踊りに花を添えます。また、鉢巻きにリボンや花を付けたリ、鳴子をシールで裝飾したりと、個性的なアレンジも加えることができます。

同クラブの皆さんは、桜ボンボリまつりなど市内外のイベントへの参加をはじめ、月2回程度老人ホームなどの福祉施設



設を積極的に訪問しています。福祉施設の訪問では、「見せることだけでなく、一緒に踊りを楽しむこと」が重要であると考え、鳴子を余分に持っていくことを忘れません。施設の入居者の皆さんに鳴子を渡し、一緒に手を動かしてもらったり、輪になって踊ったりするそうです。同クラブの皆さんは、「また来てね」という言葉が、私たちのパワーになります」と笑顔をこぼします。

「今は既存の振り付けで踊っているけれど、いつかは曲も振り付けも行田オリジナルのよさこいソーランを作って、大勢の観客の前で踊りたいですね」と今後の目標を語るメンバーの皆さん。荒木地区に限らず興味を持った方は、同クラブの皆さんと一緒に、鳴子の音を響かせてみませんか。

▼問い合わせ 新井 ☎557-1270